

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜(すみれ)		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72番地6		
自己評価作成日	令和6年11月22日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家族を入居させたいと思えるような施設を目標に、入居者様やご家族様とより良い関係を築けるよう心掛けています。各職員が担当の入居者様のご家族に毎月お手紙を書き、状態報告やイベントなどで撮った写真を送っております。職員が全て介助するのではなく、共同生活の中でその人の役割が持てるよう、色々な事を職員と行ってみたりします。各ユニットごとに誕生日会を開き、希望の誕生日メニューのお食事を提供したりしております。新型コロナウイルス感染予防の為に外出を控えているので、施設内で体を動かせるように午前にはラジオ体操、午後はごぼう先生のDVDなどを使い歌に合わせて体操を行っております。その他に施設の畑でトマトや人参、サツマイモ等のいろいろな野菜を入居者様と一緒に育て収穫し、食事に使ったりなどしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は国道46号線に程近い振興住宅地の一角にあり、周囲には住宅やアパート、コンビニエンスストアがある。広い敷地に菜園を備えた南向きのゆったりとした間取りの2ユニットの事業所である。理念である「縁」は利用者の以前の生活やこれからの生活を大切にしたい暮らしや地域との関わりも大切にしたい自立支援を行なっている。利用者ごとに担当職員を定め家族への連絡を密に行い信頼関係を築き、利用者のケアに努めている。運営推進会議の年間計画を立て予めお知らせし、家族や自治会長、民生委員、駐在所等の参加を求め、事業所運営への助言を得て効率的な事業所運営に努めている。利用者の居室の入り口には「メモリアルボックス」が掲げられ、家族との写真やプレゼント、レクリエーションで作った作品が置かれ心を和ませている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に掲示し意識付けを行っている	開設当初に設定した『「縁」いままでの縁もこれからの縁も大切にする暮らし』とする理念と運営方針、経営理念を事業所の入り口に掲示している。行動指針は毎日朝会で唱和により共有を図っている。	「縁」の理念と運営方針を職員と共有する場を設け、理念を掘り下げて職員全体で話し合い具体的なケア計画につなげることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、今年度はコロナウイルスの関係で行事などには参加できなかった	町内会へ加入し、回覧板から地域の情報を得ているが活動への参加はコロナ禍の関係で控えている。敬老会にはボランティアの方が三味線を披露し、楽しい時間を持つことができた。以前は小学校の職場体験を通じ地域との交流もあったが、コロナ禍以降なくなっている。管理者は、ボランティアの受入を多くしていきたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェなどは入居者を連れて行き、他のグループホームの方々と開催していたがコロナウイルスが拡大してきたからは開催を中止していたが、10月より再開し当施設からは職員のみでの参加ではあるが、地域の方々にお話やアドバイスなどを行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度コロナウイルスの感染状況を加味して開催しており、その場で出たご意見などはユニット会議を通じて職員に報告し、向上に生かしている	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、駐在所警察官、JAライフサポート居宅支援事業所のケアマネジャーの他に、家族にも年間開催計画をお知らせし、参加しやすいようにしている。利用者の状況、ヒヤリハットを報告し、委員からは意見の他に他の施設の情報も得ている。委員が出席しやすいよう午後7時からの開催としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課・地域包括支援センターと連携を取りながら協力して頂いている	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加しており、情報交換、相談助言を得る機会となっている。高齢者支援課とは電話やメールで相談し助言を得ている。市が主催する様々な会議には積極的に参加し情報を得るようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANや人感センサーなどの見守り機器を使いながら夜間柵などをしないようにしている。施錠に関しては、来客の方が検温をせずに入らないようユニットと玄関をつなぐドアは掛けている。特定の入居者様は窓から出ようとする方がおり、ご家族様了解のもと窓を開けないよう鍵を追加している。	身体拘束廃止委員3名で3ヵ月毎に委員会を開催している。委員会で話し合われた内容は各ユニット会議で職員に伝えている。咄嗟にスピーチロックが口をつくこともあるが、殆どの職員は自身で気づいて改めている。ユニットの入り口は施錠しており、窓を開けて出ようとする利用者の部屋の窓も家族に説明し施錠している。	施錠等の継続の是非に関し、利用者の行動を評価する話し合いを深め、身体拘束に対する職員の理解を深めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的には勿論だが、入居者に対しスピーチロックなどを行わないよう職員にも共有してもらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先々必要性があると判断した場合は家族に相談したり制度の説明をしたり、活用に向けて検討していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットや資料にて十分説明をし、了承を得た上で契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で聞かれた要望や意見などは職員間で共有しケアの向上に努めている。運営推進会議にご家族様も参加していただく機会を設け、意見や要望など聞く機会も設けている	家族には毎月、居室担当者が利用者の状況等を写真付きで送付し、家族は利用者の状況を理解し、同時に居室担当者と家族とは信頼関係が醸成され、意見等を出しやすい環境が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議のほか、ふだんの業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	職員からの意見等は、毎月各ユニットでのユニット会議で把握しており、日常的にも管理者に意見を伝え易い環境が出来ている。職員からの意見、要望のうち管理者が判断できる範囲を超えた場合には、所長会議で報告し協議することとしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為に研修受講や、施設からの研修案内などをし、受講の際は業務上の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	予定はしていたが、系列施設でのコロナでのクラスターや人員不足の為法人外での研修にはなかなか参加できなかった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジカフェや市で開催の福祉祭りなどに参加し他の施設の方や民生委員、市の包括支援センターや研修で参加した学生さんなどと交流する機会がありました		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のご家族様らの情報や、ご本人が困っている事、不安に思っていることなどに耳を傾け、出来る限り安心していただける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様が不安に思っている事、利用者様にどのような生活を送ってほしいかの要望を把握し、安心して預けていただけるような関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方に対しては施設見学をしたり、グループホームを理解していただいたうえで、必要な支援を見極め他のサービスも利用の促しも視野に入れたうえで対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る作業や得意なことをお願いしたり、または一緒に行ったりして安心して生活できるように努めている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の担当からのお手紙でご家族に様子を伝えたり、行事などの写真を送ったりしている。通院の介助など外出のお手伝いもしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出(ご家族様対応)など、コロナ等の状況に合わせて行っている、お手紙などご本人に見てもらい返信のお手伝いなどもしている	毎月外泊する利用者や友人から手紙や葉書が来る利用者も数人いる。職員がお返事のお手伝いをし、関係が途切れないよう支援している。家族が遠方にいるため訪問機会が限られる家族からは、絵葉書が送られてくるなどしている。家族以外に親戚や友人が訪ねてくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子を見守り、時には職員が間に入りながら1人ひとりが孤立することなく良い関係性が保てるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとこちらからは連絡は取っていないが、ご相談などがあれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中や、ケアプランの見直し時期の聞き取りなどから本人の希望や意向の把握に努めて、出来るだけ対応できるように努めている	利用者全員会話が可能である。思いを伝えられない利用者は2人おり、表情や行動で把握するよう努めている。日頃の生活から好きなことを把握し、それぞれに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネからの情報提供や、入居時にご本人からの聞き取り、入居後の会話などから把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の状態などを記録し、職員間で申し送りして情報共有しケアに活かせるようにしている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、状態の変化がある時はケアプランの見直しを行っている。本人や家族の要望、職員の意見などを反映させ介護計画作成に努めている	ケアマネジャーはユニットで日常のケアに従事しながら利用者のモニタリングを行っている。ケアマネジャーが計画原案を作成し、その後それぞれのユニット会議で協議している。利用者の状況等に変化がない場合には、短期目標3、4ヵ月、長期目標を1年としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェック表への記入や24時間シートへの入力、状態変化や気づきなども入力し申し送りすることで職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでは利用できるサービスは限られているが、状況の変化に応じて柔軟な対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントの際にボランティアに来ていただいたりはしているが、日常的に地域資源との協働は出ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には主治医への情報提供を行い、必要な時に適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医にそのまま通院していただけるようにし、その際は家族に付き添いをお願いしている。職員が付き添った場合には受診結果を家族に報告している。薬局の薬剤師が薬を届けてくれ、様々な相談に応じてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の際に状態報告を行い、情報の共有や受診の必要性など相談し適切な受診が行えるよう支援している		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書での情報共有をし、電話連絡で経過報告を伺ったりなど、病院関係者との関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際や終末期のあり方について説明し書面で同意を得ている。	介護度が進んだ場合には事業所の体制上、対応が困難な状況にあるため、入居時に利用者、家族に対応出来る支援について説明し了承を得ている。基本的に、事業所での入浴介助ができなくなる要介護4となった場合に、次の施設の説明と援助を行っている。開設以降2名の看取りを行なったが、現在は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生のマニュアルはあるが、実践力が見についているかは不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新しい職員も入ったので自分も改めて危機管理意識の向上に努めたい	火災を想定した避難・通報訓練を年2回行っている。今年度はこれから訓練を予定し、新人職員に通報訓練を体験してもらうことを目的の一つとしている。以前には地区に回覧板を回し避難訓練への協力を募り、参加していただいたことはあるが、コロナ禍以降は協力を求めることはなくなった。事業所は、ハザードマップ上で水害の対象区域とされていない。	職員だけでの誘導の限界を具体的に認識できるよう、夜間を想定した避難訓練の実施を検討されるとともに、運営推進会議を通じて、地域の方の参加を呼びかけることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いや、その人に合った声がけをしプライバシーに配慮して対応するように心掛けている	利用者への声かけは利用者1人1人に確認し、名前や苗字でさん付けとしている。居室に入る場合は声をかけ入室している。排泄誘導の際に他人に聞こえるように誘導している場面を見た時は、その場で注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自己決定が難しい方もいらっしゃるが、本人の思いや希望をくみ取れるように心掛けている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望などは受け入れるようにしているが、業務が優先になり待っていただいたり、出来ない事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出の際など着る服を一緒に選ぶようにしているが出来る方が限られてしまっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたいものが食べれるように聞き取りをしたり、季節のメニューをお出ししたりしている	献立ソフトを活用し、各ユニットの職員が4日分程度の献立を立て、職員が手作りで調理している。利用者が苦手なものや食事形態を考え作っている。誕生会では誕生日のケーキや本人の希望を聞き、食べたいものを提供している。季節感を大事にし、菜園で収穫した野菜を活用したり、大晦日、お正月の食事を楽しめるように工夫している。マグカップやお茶碗など使い慣れたものを持ち込み使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘にならないように制限がなければ水分は多めに摂取してもらうようにしている。本人の歯の状態や嚥下機能を見ながら、刻み食、とろみ使用などで対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分でできる方には声がけを、出来ない方は介助にて行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を自立で出来る方がどんどん減ってきており、時間での声がけや介助が主になってしまっている。そのため自立に向けた支援は難しくなっている	トイレは施設内に2カ所ある。排泄の援助は、時間を見ながら誘導している。夜間ポータブルトイレを使用している人は2ユニットで3人、自立している利用者が多く現状維持できるように支援している。排便確認を確実にし体操や水分補給をこまめに支援し、便秘の予防にも努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便管理を行い。朝食時に牛乳やヨーグルト、ヤクルトなども接種している。水分を多くとってもらいながら処方になっている下剤の調整なども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出や通院の予定がある際などは前日に入浴するように調節している。それ以外は基本週に2回の入浴になっており拒否などがなければ事前に声掛けをして入浴している	入浴は週に2回を基本とし、外出や病院受診前には入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者はいない。入浴は職員と一対一のコミュニケーションの場であり、ゆったり時間を取るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為お昼寝の時間以外は出来るだけ眠らないように支援している。室温や照明、寝具など個々に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個別ファイルにしてし、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば記録への入力、申し送りで周知、情報共有するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様方に合った楽しみが出来るよう努力はしている。テレビ番組でも時代劇や歌、バラエティーなど入居者様が好きなものを録画し観ていただいたり、パズルや絵本、本や新聞なども準備している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員や業務に支障がない際などは外に散歩に行くこともあるが、本人が行きたいときに出かけられるような支援までは出来ていない	お花見や紅葉の時期には恒例のドライブに出かけている。今年は各ユニットでバラ園や紫陽花ロードに出かけ、食事とジェラードを食べることができた。敷地内の菜園で職員と一緒に収穫を行っている。今年はチャグチャグ馬っこに地域のご好意で見学場所を確保でき、6名が出掛けている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人了解ですみれユニットでは本人管理をしていない。(本人もお金に特に執着がないため)ご家族からの預り金は事務所で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の訴えなどはないが、ご家族様からのお電話などは本人につなぐことはある。手紙などはご家族や友人に出す方もおられるので支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の飾りつけを行ったり、時期ごとの塗り絵をしてもらい飾ったりしている。教養部の、居室の温度は快適に過ごせるように管理している	ホールは広く明るい光が差し込む居心地の良い空間となっている。リビングには食事用の円卓とソファ、テレビがあり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。ホールの壁には利用者と職員の作品が飾られて季節感を感じることができる。室温も適正に管理されゆったりとしたスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを置きテレビを観れるようにしている。他に座りながら会話をしたり、食席で本を読んだりパズルをしたりなど思い思いに過ごしている。外を眺めるのが好きな方いるので、ベランダ前に椅子を置き外を眺めれるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたものも持ってきていただくようにし、出来るだけ不安にならないようにしている	居室の入り口にはメモリアルボックスがあり、家族から送られてきた写真等を飾ることができる。居室内にはベッドとクローゼット、洗面台が設置され、エアコンや加湿器で空調調整されている。読書が好きな利用者はカラーボックスを設置し本を入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名前、トイレにはわかりやすくトイレの掲示をし自身で確認して入れるようにしている。立位での口腔ケアが難しい方などは、洗面台前に椅子を置いている		